

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 障害のある子どもを支援するにあたって、子どもが取り組みやすい環境設定を行ったり、子どもに伝わるための言葉がけの工夫や対応をしていくことの大切さを理解することができました。また、子どもを支援するためにも保護者の心情を理解しながら、互いに連携していくことの大事さも分かりました。今後、支援員として関わっていく際、子ども一人一人の姿・様子を十分に理解し、できたことは認め、褒めることで自信をつけさせていく関わり方をしていきたいと思いました。
- ◆ 気になる児童への必要な支援は個々によって異なり、いつも対応の難しさを感じていますが、リフレーミングを理解することで、今まで児童のマイナス面しか見ていなかったこと、そして見方を変えてみることで関わり方も変わってくることに気付くことができました。興味が偏っている児童に対し、その子のもっている得意な力を引き出せる支援ができればと思います。また、対応の工夫について具体的に学ぶことができ、今後の支援に活かしていきたいと思います。
- ◆ 障害のある子どもへの支援で、上手な褒め方の3つのルールはすぐにでも実践していこうと思いました。嫌みにとれるような言葉は使わず、褒めて終わることはとても大事なので、今後の発言でも気を付けていきたいです。講師が仰っていた「放課後を楽しみにしている児童はたくさんいる」という言葉を聞き、子どもたちが放課後児童クラブへ行くことが楽しみになるような環境づくりや支援をしていきたいと思いました。
- ◆ その子をしっかりと見ることで見えてくる苦手や短所等のマイナスな部分のみに目を向けるのではなく、出来ることや得意なことを活かし伸ばしていくことが大切ということを教えていただき、支援員の責任の重大さを感じるとともに、継続していくことで、子どもが生き生きと生活し、成長した姿を見ることができるというやりがいも感じました。保護者の心情にも向き合いながら、周りの子どもたちにうまく配慮できる支援員になりたいです。
- ◆ 障害のある子どもたちを支援するにあたっては、まずは環境を整えることが大切で、これは世の中の人皆に分かりやすいものでなければいけません(ユニバーサルデザイン)。そして、対応の工夫も必要で、自己肯定感もてるように褒めたり、子どもに伝わる言葉がけをしたり、あるいは問題行動の理由を考え、適切な行動を増やしていけるように対応していくことが大切だと思いました。